活動目標
みんなの助川を
住みよいまちに！

# 助川

発　行　助川学区コミュニティ推進会
編　集　調査広報部
事務局　〒317-0071
日立市鹿島町1-21-7
助川交流センター内
TEL　0294-23-0955
ホームページ：http://www.net1.jway.ne.jp/c-sukega/

## 学校子ども会

すべては「子どものために」

| 班 | 地　区 | グループ名 | 第1回学校子ども会担当サポーター | 第2回活動予定内容 | 第3回活動予定内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 高鈴1・2 | あおぞら | 吉澤和久 | 昔遊び | なんでもバスケット |
| 2 | 高鈴1・2 | 仲良しグループ | 笹村和義<br>笹村正子 | 昔遊び | なんでもバスケット |
| 3 | 高鈴1・2 | チーム高鈴 | 大竹きく江 | なんでもバスケット | 昔遊び |
| 4 | 助川3 | 水色グループ | 木下俊雄 | 昔遊び | なんでもバスケット |
| 5 | 助川4・5 | 元気たくさん助川チーム | 下山田勇 | ハンカチ落とし<br>なんでもバスケット | じゃんけん列車<br>昔遊び |
| 6 | 助川5 | クロワッサン | 森戸裕子 | ビンゴ<br>時限爆弾ゲーム | いす取りゲーム<br>昔遊び |
| 7 | 弁天1～3 | べんてんちょうの7班グループ | 滝勝行<br>佐藤三那子 | 昔遊び | 2回でできなかったゲーム |
| 8 | 弁天1～3 | 弁天エイト | 小林真美子 | なんでもバスケット<br>昔遊び | 時限爆弾ゲーム<br>ひたち郷土カルタとり |
| 9 | 助川1・2<br>鹿島1～3 | S・Kナイン | 中村雅利<br>吉澤祐一 | なんでもバスケット<br>時限爆弾ゲーム | 昔遊び |
| 10 | 鹿島1～3 | KSM25 | 鈴木政明 | なんでもバスケット<br>時限爆弾ゲーム | 昔遊び<br>ハンカチ落とし |
| 11 | 鹿島1～3 | 太陽 | 小泉義明 | 昔遊び | ボール送り |
| 12 | 鹿島1～3<br>神峰 | 12はん | 吉田孝太郎 | なんでもバスケット<br>（ボールおくり） | 昔遊び |
| 13 | 城南1～3<br>会瀬4 | コーヒー | 永井康介 | いす取りゲーム | 爆弾ゲーム |
| 14 | 城南5<br>学区外 | なかよしでえがおの14はん | 金津勇<br>梅原道弘 | 昔遊び | ハンカチ落とし |

☆第1回活動☆
六月十九日　土曜日
・グループ名決定
・リーダー決め
・次回活動内容決め

**助川学区　学校子ども会の概要**
◎助川小学校に在籍する児童全員が参加
◎地域ごとに異年齢集団（地区集団）を編成
◎地域集団ごとに上級生と下級生が一緒に楽しく活動する

助川小学校に在籍する子ども全員による「学校子ども会」が開催されました。
子どもの育ちには、家庭・学校・地域の絆づくりが大切と、サポーターの協力により、六月十九日、助川小学校の土曜授業の一校時に、令和三年度初めての集団活動を行いました。
サポーターの挨拶、子供たちの自己紹介、リーダー選出、グループ名の設定・さらに次回以降の活動内容の話し合いを行い元気にスタートしました。

あおぞら

仲良しグループ

チーム高鈴

水色グループ

元気たくさん助川チーム

クロワッサン

べんてんちょうの7班グループ

弁天エイト

S・Kナイン

教室に笑顔あふれる

なかよしでえがおの14はん

KSM25

太　陽

12はん

コーヒー

地域で育む地域の子



《ふるさとの地名》

## 『常陸国風土記』に登場する助川

**★助川の名の由来**（『常陸国風土記』の記述）・・・助川の地名は『常陸国風土記』（以下『風土記』と略す）久慈郡の条（二）に、「此より（密筑の里）、艮（うしとら）二十里に、助川の駅家（うまや）あり。昔遇鹿（あうか）と号（なず）く。」（『講談社学術文庫版』）と登場します。この名の由来として「河に鮭を取るが為に、改めて助川と名づく。俗の語に、鮭の祖（おや）を謂いて、須介（すけ）と為す。」とあります。つまり、かつては遇鹿といわれた地名が『風土記』の時代に助川になったということです。

助川城址公園から見た助川地区（中央助川小）

■駅家は古代律令時代の官道に一定間隔で官人の宿舎や厩舎として置かれ、『風土記』の記述から助川にもあったことがわかります。また、鮭を取った河は現在の宮田川であり、宮田（多珂郡）と助川（久慈郡）の境とであったとのことです。しかも、宮田川以北は道前（みちのくち）ということで、いわゆる陸奥（みちのく）の入口にあたる地域になります。

**★介川と助川**・・・助川を介川と表記した歴史があります。『風土記』では助川ですが、中世から近世にかけては介川の表記が主流になったようです。江戸期末から明治期にかけて成立した『新編常陸国誌』の「助川郷」には、「倭名鈔云、助川、按ズルニ、今ノ多珂郡介川村ナリ」と記されています。ただ、江戸期寛永 12 年（1635）の郷高帳には、助川村と記されていますので、混同されていたのではないでしょうか。

**★助川町へ**・・・助川はかつて会瀬地区も含んでいたようですが、次第に会瀬地区が助川から離れていきました。中世には会瀬は相賀村の名で登場してきます。

■明治 22 年（1889）の町村合併で助川村と会瀬村が合併し、高鈴村になります。高鈴村の名は、この地域で最も高い山であった高鈴山に由来することはいうまでもありません。さらに、大正 14 年（1925）に高鈴村は助川町になります。これは、日立鉱山、日立製作所の発展に伴う人口増加により、町制移行になったものです。当時、助川町の人口は 9,660 人でした。ただ、合併時に町名が問題になりましたが、高鈴町ではなく、古くから伝わる助川の名を採用したとのことです。

助川宿駅のあった助川下町（昭和 15 年頃）

**★助川宿駅**・・・江戸期、助川は岩城相馬街道の宿駅（宿並）として栄えます。日立地方には宿駅がいくつか設けられ、その中で助川が最も栄えたといいます。「大名が休泊する本陣と従者などが休泊する脇本陣、一般の人々が宿泊する旅籠が軒を並べていた。」（『新修日立市史　上巻』）ということです。助川宿並は、現在の日立保健センターから日立市役所にかけての国道６号沿いになります。

☆今後の予定☆

新型コロナウイルス
感染症防止の為変更あり

助川交流センター
夏季臨時休館
8月13日（金）～
8月15日（日）

◆助小学区大運動会　中止
~~9月18日（土）~~

◆助川学区敬老会　中止
~~9月25日（土）~~

代わりに
日立市敬老高齢者
元気応援事業を
実施予定